

小学部体育科改訂のポイント

○目標の改訂の要点

小学校体育科の目標との連続性を踏まえ、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を重視する目標。
知的障がい者である児童生徒に対して、学校教育が長年、育成を目指してきた「生きる力」を構成する健やかな体を育むにあたり、要の教科である。

○内容の改訂の要点

小学校体育科の内容との連続性を踏まえて六つの運動領域と一つの保健領域となる。「保健」については、現行生活科「健康・安全」のうち「健康管理」について体育科で示す。

○指導計画の作成と内容の取り扱いの要点

指導計画の作成については、授業改善を図ること、六年間を見通した全体的な指導、他教科との関連など。

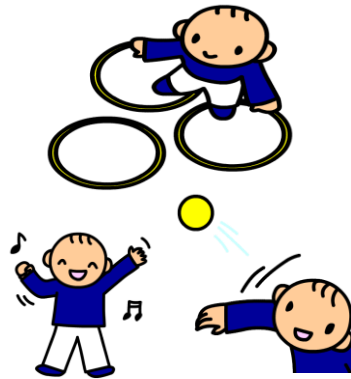
内容の取り扱いについては、学校や地域の実態、児童の障害の状態、遊びや運動の経験、技能の程度などに応じた指導の工夫。体育科における指導をオリンピック・パラリンピックにつがるようにすることなど。

参照：文部科学省初等中等教育局特別支援教育課

平成29年度新特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領説明会(H29.7.18～19)

現行学習指導要領

- (1) 基本的な運動
- (2) 運動遊び
いろいろな運動
- (3) きまり
きまり・安全



新学習指導要領

- A 体づくり運動遊び
体づくり運動
- B 器械・器具を
使った遊び/運動
- C 走・跳の運動遊び
走・跳の運動
- D 水遊び
水の中での運動
- E ボール遊び
ボールを使った
運動やゲーム
- F 表現遊び
表現運動
- G 保健

本校における保健体育の重点項目

高等部	・自分の好きな運動を選んで実践できる ・様々な種目への取組(選ぶ) ・チームで作戦会議・仲間との協力、共感 ・体力の向上(筋力)	・生活に必要な健康・安全に関する事柄を理解し、将来の生活を豊かにする態度の育成 保健
中学部	・運動の経験を広げる ・ルールのある運動 ・自分の身体・動きへの気づき・相手を意識した取組 ・体力の向上(持久力)	・思春期における健全な心身の育成 保健
小学部	・運動の楽しさ、喜びを感じ「好き」になる ・動きの基礎、基本(走る、跳ぶ、投げる、物の操作) ・友だちと一緒に ・体力の向上(調整力)	・健康や身体の変化に関心をもつ 生活科(健康) → 保健

小学部タイム(10:10～10:35)

週間学習計画(10月初旬～12月)
場所: 体育館

月	火	水	木	金
表現運動	(サーキット) 体づくり運動	(サーキット) 体づくり運動	(サーキット) 体づくり運動	ボール運動

単元について

単元の概要

- I ; 動物のイラストを見て体の動きで表現する。
- II ; 遊園地の動画を見て体の動きで表現する。
- III ; 動物のイラストを見て友達と一緒に体の動きで表現する。

現行 学習指導要領 内容 2段階(2)

いろいろな器械・器具・用具を使った運動、表現運動、水の中での運動などに親しむ。

新 学習指導要領 内容 2段階 F表現運動

ア 教師の支援を受けながら、音楽に合わせて楽しく表現運動をすること。
イ 基本的な表現運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。
ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、基本的な表現運動をしようとする。

単元の目標

- 1) さまざまな体の動かし方ができる。【知識・技能】
- 2) 呈示された物の動きを思い出し、体を使い表現することができる。【思考・判断・表現】
- 3) 楽しみながら体を動かすことができる。【主体的に学習に取り組む態度】

実践における工夫点

～S授業研における授業改善のなかから見えてきたもの～

1) 動きを知る・できる【知識・技能】

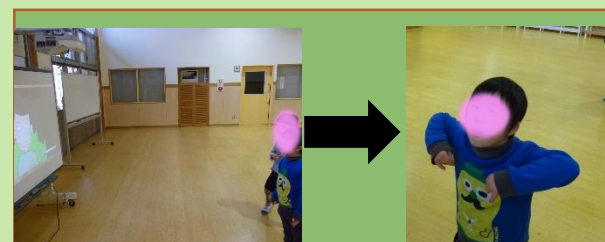
- ①カエル、へび、馬等、動きが特徴的かつ児童が興味を持ちやすい動物をはじめに呈示しました。
- ↓
- ②3種類の動物を呈示し、毎回繰り返し取り組むことで、ジャンプや四つ這い動き等のさまざまな動きを獲得しやすくなりました。
- ↓
- ③学習の中盤に発表の場を設け、友達の動きを見て真似て動くことができるようになりました。

2) 動きのイメージ化【思考・判断・表現】

- ①呈示する動物をイラストで表示した。
- ↓
- ②動きをイメージしやすいように、動画で実際の動きを見せ表現するようにした。
- ↓
- ③それぞれの児童が考えた動きについて、教師が言語化する問いかけをしたり、動きを評価するような声かけを適宜行いました。



①イラストを見て



②動画を見て → 表現する

3) 自由に表現することの楽しさ【主体的に学習に取り組む態度】

- ①表現することへの期待が高まるように、実際の活動(遠足:遊園地等)と呈示物をリンクさせました。



遠足に行って → 動画をみて → 友達と表現する

- ↓
- ②発表場面を毎回設定することで、児童自身が自信を持ち、もっとしたいという意欲を高められるようにしました。
- ↓
- ③友達と3人グループになり、一緒に考えて表現するようになりました。



児童の実態(Dグループ)

新学習指導要領を参考に、児童を習熟度別に4つのグループに分け、それぞれのグループの目標に合わせて、授業を行った。

児童名	学年	性別	ボール操作(できること)
A	6年	男	<ul style="list-style-type: none"> 手や足を使ったドリブル 定められた方向にボールを投げる 自分に投げられたボールを両手で捕る
B	5年	女	
C	5年	男	
D	4年	男	

単元について

単元の概要

2つのゲームを通して、上手投げ(オーバーハンドスロー)を身に付け、遠くに投げる力を育む。

現行 学習指導要領 内容 体育 3段階(2)

いろいろな器械・器具・用具を使った運動、表現運動、水の中での運動などをする。

新 学習指導要領 内容 体育 E

ボールを使った運動やゲームの楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な運動を身に付けること。
 ボールを使った運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気拭いたことなどを他者に伝えること。

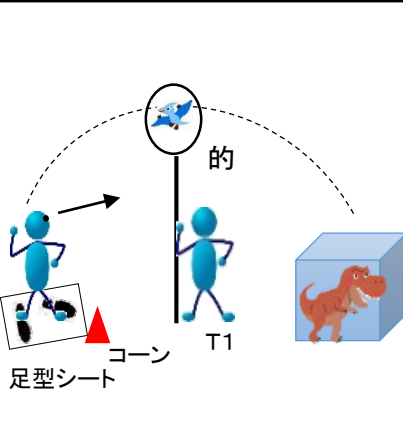
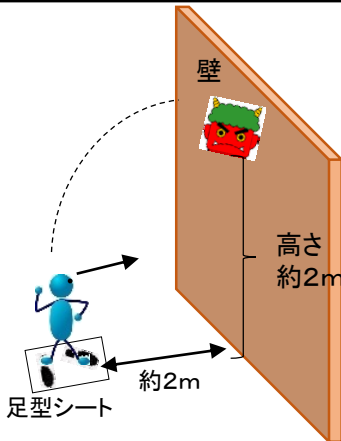
単元の目標

- 1) ボール(お手玉)を遠くへ投げるができる。 **【知識・技能】**
- 2) 友達や教師の投げ方を参考に、自らの投げ方を考え、活動に取り組むことができる。 **【思考・判断・表現】**
- 3) 自ら目標の回数や距離を決め、何度も課題に挑戦し、運動に楽しく取り組む。 **【主体的に学習に取り組む態度】**

第1次: 鬼の的当てゲーム 3時間(15分×3)

第2次: 恐竜エサやりゲーム 4時間(15分×4)

ゲーム図



- 投げるボールはお手玉を使用する。
・転がりにくく、投げた距離が分かりやすい
- 「足型シート」を用意し、足を置いて投げる。
・ボールを投げる方向に対して、横を向いて構える。
・肩や腰(体幹)を回転させて投げる。
- 友達の良いところの紹介
・友達を模倣、自分との比較ができる。
- 児童の言動を価値づける
・投げるポイントや児童の気づきを整理し、称賛することで投げるポイントを再確認できる。
- 「できるようになった」実感
・回数や距離をテーマとした授業
・授業の終わりに、今日の様子を児童に伝える。



工夫

- 的を高さ約2mに設置
・狙って投げないと当たらない高さ
・肘を上げ、高く投げることを意識
- 自ら目標を持って
・授業の始めに前時の記録が書かれたシートを見て、自ら目標を決める時間を設ける。



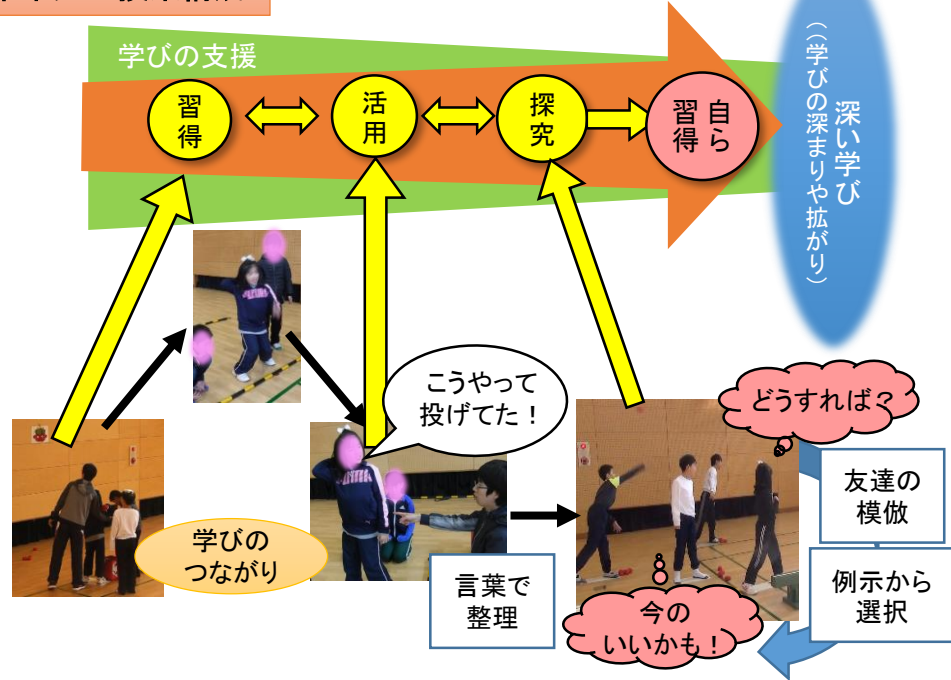
- 一定の距離(5m~15m)ごとにコーンを設置
・「できる」「できそうな」距離設定
・投げる距離が自分で分かる。
- 棒をつけた的を用意
・高さを意識して投げる。
- 自ら目標を持って
・授業の始めに本時の目標距離を決める時間を設ける。
・目標距離の場所に「足型シート」を貼る。
・距離を達成したら、「足型シート」を後方へ。自分で距離を伸ばして挑戦。

児童の変容

参考文献 滝沢 洋平・近藤 智靖(2017) 投動作の観察的評価基準に関する研究—小学校全学年児童の動作を対象として— 体育科教育学研究 33(2):1-17.

	学習前	学習後		
		投げる前(準備動作)	投げる直前・投げた直後(主要動作)	投げた後(終末局面)
A				
B				
C				
D				

本単元の授業構成



小学部 体育 授業のアイテム ~3つの学びのために~

